

新聞紙を用いた造形活動について

——学生の造形技法の実態——

井戸 裕子

(平成9年10月2日受理)

The Plastic Arts Activity Using Newspapers as Materials

——The Actual Condition Plastic Arts Technique of College Student——

Yuko Ido

(Received on October 2, 1997)

はじめに

教員免許状取得の必修科目として、特に現在音楽、図工、体育が基礎技能科目として課せられてきた。幼稚園教育要領が、音楽リズム、絵画製作という形で保育内容を提示せず、表現となり、保育者養成としてこの点をどう考えていかなければならないかが、問題となっている。

造形教育の場合、特に小学校以上の学校教育では、どうしてもよい作品を作らせる、仕上げるのが主な目的になり、技術指導に重点がおかれてきた。その在り方が、幼児教育にも多少影響している。

そこで幼稚園教育要領に添い、表現のねらいに、・感じたことや考えたことを様々な方法で表現しようとする、・生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ^(注)、という項目が示されていることをふまえ、保育者をめざす学生達が、自ら体験することにより、幼児と楽しむ表現を実施、援助、指導する時を考え、役立つ体験は何かと考え、新聞紙を用いた造形活動を実施した。

1. 目 的

学生の活動の中から多様な反応をひき出すことが出来た。予測したより豊かな技法が多くみられたので、本研究は、その中で新聞紙を用いた造形技法の視点から考察を行う。

2. 方 法

〔1〕実施対象

- ・東京家政大学1年児童学専攻79人
- ・東京家政大学短期大学部保育科2年A組54人、B組51人、C組60人、D組54人

〔2〕実施方法

- ・材料は新聞紙全紙大1枚・白ハツ切(B4)画用紙1枚を、学生1人1人に配布する。
- ・画用紙に記名させる。(組、出席番号、氏名)
- ・『今日は、新聞紙で遊びましょう』と、ことばをかける。
- ・新聞紙を扱う技法は、すべて学生の自由にまかせる。
- ・学生から要求があった時に、のりやセロファンテープを出す。
- ・活動の終りに、何を表現したか、記録させる。

〔3〕調査実施日、時、場所

- ・1997年4月15日(火)A組9時~10時、D組1時20分~2時20分、地下造形教育実習室
- ・1997年5月26日(月)B組9時~10時、C組10時40分~11時40分、地下造形教育実習室
- ・1997年6月17日(火)大学1年児童学専攻4時30分~5時30分、4階リズム遊戯室

3. 結果および考察

学生が示した技法をどのように分類するかは、いろいろな方法があろうが、今回は、実際に示された活動結果をみて、以下のように分類した。

表-I 技法とその出現率

技法種類	大1児学 79人		2 A 54人		2 B 51人		2 C 60人		2 D 54人	
	出現数	出現率(%)	出現数	出現率(%)	出現数	出現率(%)	出現数	出現率(%)	出現数	出現率(%)
丸める	63	23.1	41	28.3	40	21.2	36	18.9	38	21.8
巻く	12	4.4	13	9.0	5	2.6	1	0.5	7	4.0
ねじる	57	20.9	24	16.6	18	9.5	41	21.6	29	16.7
ひねる	8	2.9	6	4.1	6	3.2	6	3.2	2	1.1
ちぎる	45	16.5	33	22.8	50	26.5	32	16.8	44	25.3
裂く	11	4.0	1	0.7	6	3.2	4	2.1	5	2.9
破る	3	1.1	0	0	4	2.1	14	7.4	4	2.3
切れ目を入れる	1	0.4	1	0.7	1	0.5	1	0.5	0	0
折る	22	8.1	2	1.4	39	20.6	7	3.7	24	13.8
ジャバラ折り	4	1.5	14	9.7	1	0.5	0	0	0	0
紙バネ折り	1	0.4	0	0	0	0	1	0.5	1	0.6
たたむ	9	3.3	1	0.7	0	0	3	1.6	3	1.7
重ねる	2	0.7	1	0.7	3	1.6	3	1.6	1	0.6
かぶせる	1	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0
包む	9	3.3	3	2.1	1	0.5	5	2.6	1	0.6
詰め込む	2	0.7	0	0	1	0.5	0	0	0	0
結ぶ	15	5.5	4	2.8	7	3.7	26	13.7	8	4.6
編む	0	0	0	0	2	1.1	2	1.1	0	0
三つ編	3	1.1	0	0	1	0.5	0	0	0	0
穴をあける	3	1.1	1	0.7	1	0.5	6	3.2	0	0
切りぬく	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.6
ふくらます	0	0	0	0	1	0.5	0	0	0	0
つぶす	0	0	0	0	1	0.5	1	0.5	0	0
止める	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.6
貼る	2	0.7	0	0	1	0.5	0	0	4	2.3
差し込む	0	0	0	0	0	0	1	0.5	1	0.6
合計	273	100.1%	145	100.3%	189	99.8%	190	100%	174	100.1%
技法種類数	20		14		20		18		17	
平均出現数	3.5		2.7		3.7		3.2		3.2	

〔1〕 学生が示した技法について

“丸める”という技法は、新聞紙をぐしゃぐしゃにして丸くする。

“巻く”というのは、例えば剣を作る時のように、紙の端からクルクルとカールさせる。

“ねじる”と“ひねる”の違いは、“ひねる”は、1回だけねじる技法を言い、“ねじる”は、ひねることを繰り返して行われ、紙を細長くこよっている状況である。

“ちぎる”は、細長く、あるいは、細くきれぎれにした技法。

“裂く”は、二つに分けるような切り方の技法。

“破る”は、穴をあけるような裂き方の技法。

“切れ目を入れる”は、切り離さずに、途中まで切り込みを入れる技法。

“折る”は折り紙をする様に、角と角、辺と辺等、合わせて折る技法。

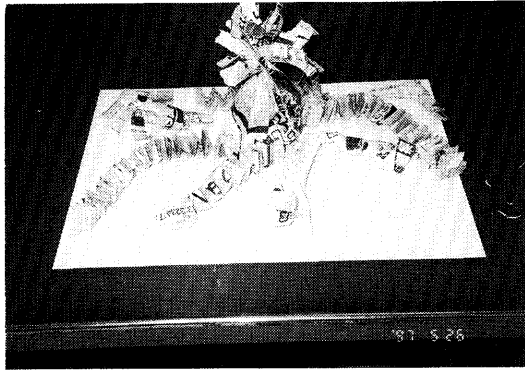
“ジャバラ折り”は、扇のように山折り、谷折りを繰り返して行われる技法。

“紙バネ折り”は、ジャバラ折りを二つ組み合わせて、バネのように伸縮する折り方の技法。(写真①参照)

“たたむ”は、折り返してかさねる技法。

“重ねる”は、作った物の上に、さらに他の物をのせる技法。

“かぶせる”は、帽子やかぶとなどを作った物を他の



写真① “紙バネ折りの作例

物（例えば動物など）に上から覆うようにしてかぶせたり、中が見える状態で半分ぐらい包まれている技法。

“包む”は、中がすっかり覆われて、外側からは見えない技法。

“詰め込む”は、中を空洞にするのではなく、丸めたり、ちぎった紙を詰め込むことにより、出来上がったものにボリューム感を出すための技法。

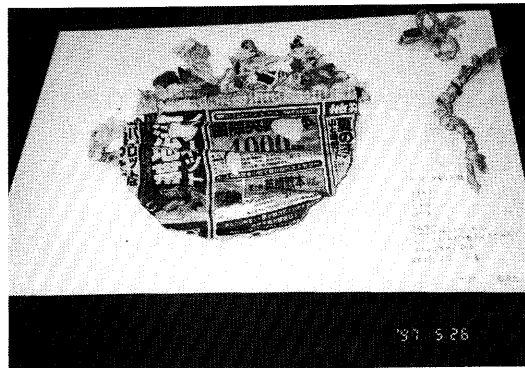
“結ぶ”は、リボン結び、蝶々結び、片結びなどのように、細長くねじった物を結んでつなげる技法。

“編む”は、縦横に組み合わせたり、自由にからませたりした技法。

“三つ編”は、三本の細長くねじった物を束ねて、一本ずつ交互に編む技法。

“穴をあける”は、くぼんだ所を作る状況や、くぼませた先まで突き招ける技法。

“切りぬく”は、ちぎって中を抜き取る技法。（写真②参照）



写真② “切りぬく”の作例

“ふくらます”は、ふわっとさせることで、例えば、紙風船などを作った時に空気を入れてふくらませる技法。

“つぶす”は、おしつけてぺしゃんこにする技法。

“止める”は、例えば、てるてる坊主を作り、ねじっただけでは、ほどけて来るので、そのねじった所を止めた技法。

“貼る”は、のりやセロファンテープなどで、他の物につける技法。

“差し込む”は、紙と紙をつなぐ技法として、切り込みを入れ、その中につなぐ物を差し入れる技法である。

〔2〕全体的考察

① 技法の出現数

学生の示した技法は、前述の通り、丸める、巻く、ねじる、ひねる、ちぎる、裂く、破る、切れ目を入れる、折る、ジャバラ折り、紙バネ折り、たたむ、重ねる、かぶせる、包む、詰め込む、結ぶ、編む、三つ編、穴をあける、切りぬく、ふくらます、つぶす、止める、貼る、差し込む、以上合計26種類の技法が出現した。

・学生の自由に表現した結果、26種類もの技法が出現したのは、友達とのかかわりで、相互に見せ合ったり、刺激されながら、楽しく遊び、子どもの頃の経験などが影響されて作り出されたのではないかと考えられる。

大学1年生は、20種類の技法、短大2年生は、25種類の技法が出現した。短大2年生をクラス別にみると、A組は14種類、B組は20種類、C組は18種類、D組は17種類という結果で、A組以外は、大学1年生との出現技法の種類数に差はあまり見られない。

表-1に示したように、平均出現数の最も多いクラスは、B組3.7種類、次いで大学1年生3.5種類、C組、D組は、3.2種類、A組は2.7種類と最も少ない。

短大2年生全体での平均出現数は、3.2種類である。

個人別にみると、大学1年生の最大出現数は6種類の技法、最小出現数は1種類の技法に対し、短大2年生の特にB組は、最大出現数は8種類の技法、最小出現数は2種類の技法である。C組は、最大出現数は6種類の技法、最小出現数は2種類の技法で、A組、D組は、最大出現数は5種類の技法で、最小出現数は2種類の技法である。

大学1年生、短大2年生に共通して出現した技法は、“丸める、巻く、ねじる、ひねる、ちぎる、裂く、折る、重ねる、包む、結ぶ”の10種類の技法である。

② 出現数の多い技法

大学1年生は、“丸める”が23.1%と最も多く、次いで“ねじる”20.9%、“ちぎる”16.5%の出現順位である。

短大2年生全体では、“ちぎる”が22.8%、“丸める”22.2%、“ねじる”16%の出現順位である。

大学1年生、短大2年生共に、上位に出現した技法は、“丸める、ねじる、ちぎる”の3技法で60%を占めている。

・この技法は、紙でつくる技法“切ること、折ること、つなぐこと”の最も基本的技法と考えられる。

③ 短大2年生のクラス別の特長

A組は“丸める”が28.3%と最も多く、“ちぎる”22.8%、“ねじる”16.6%とつづく。

特に“ジャバラ折り”が9.7%と他のクラスと異にせずば抜けて出現している。

平均出現率は、2.7種類と他のクラスと比較して、最も少ない出現率になっている。

B組は、“ちぎる”が26.5%と最も多く、“丸める”21.2%、“折る”20.6%の出現率である。

また、平均出現率は、3.7種類と、他のクラスと比較して最も多い出現率になっている。

B組だけが“折る”技法が上位3位に出現し、“ねじる”技法の出現率は、9.5%と低くなっている。

B組は、一人で8種類と最も多くの技法を使用した者があり、自己発現がふだんからできるようになっていると同時に、周囲への影響、つまり友達のやることを見たり、教え合ったりしていると推察される。

C組は、“ねじる”21.6%と最も多く、“丸める”18.9%、“ちぎる”16.8%がつづく。

特に“結ぶ”は13.7%の出現率で、他のクラスにも“結ぶ”技法は出現するが、C組がずば抜けて高い。

D組は、“ちぎる”が25.3%と最も多く、“丸める”21.8%、“ねじる”16.7%がつづいている。中でも、“折る”という技法が13.8%の出現率であり、B組の20.6%に次いで多い。

・表現Ⅰの授業を利用しクラス別に実施したが、それぞれのクラスカラーがあるので、多少の出現にちがいが出るのは当然と考えられる。友達関係や表現力の影響など原因がどこにあるかは、つぎの研究テーマとなろう。

〔3〕技法別考察

① 切る系列の技法

“ちぎる” “裂く” “破る” “切れ目を入れる” “切

りぬく”の合計出現率をみると、B組32.3%、D組31.1%、C組26.8%、A組24.2%、大学1年生22.0%の順である。

B組は、他のクラスと比較して最も多く“ちぎる”技法を使用し、“裂く”3.2%、“破る”2.1%、“切れ目を入れる”0.5%を加え合計32.3%となる。

“切りぬく”という技法は、短大2年生にわずか1件だけ出現した。

・全体として“ちぎる”ことが多く、“裂く” “破る”が少ないのは意外であったが、やはり指先でちぎっていくという活動が、やりやすいのであろう。

② 折る・曲げる系列の技法

“折る” “ジャバラ折り” “紙パネ折り” “たたむ”の合計出現率をみると、B組21.1%、D組16.7%、大学1年生13.3%、A組11.8%、C組がわずか5.8%である。

“ジャバラ折り”はC組、D組には出現せず、“紙パネ折り”はA組、B組に出現しない。

“たたむ”はB組のみ出現しない。

曲げることについては、“丸める” “巻く”の合計出現率をみると、A組37.3%、大学1年生27.5%、D組25.8%、B組23.8%、C組19.4%の順である。

“丸める”と“巻く”の技法の出現率を比べてみると圧倒的に“丸める”技法が多く出現している。

・“丸める”技法は“巻く”技法と比較すると、簡単に出来るという利点が考えられる。

“巻く”技法は、正確に強く巻き込んでいかなければならず、指先の巧緻性が問われるためではないかと考える。

③ つなぐ系列の技法

“ねじる” “ひねる” “結ぶ” “編む” “三つ編”の合計出現率を見ると、C組39.6%、大学1年生30.4%、A組23.5%、D組22.4%、B組18%の順である。

C組は、ねじる技法を最も多く使用したクラスである。ねじる技法を使用して、各部分部分をつなげていく活動が多く生じこの技法の出現率が第1位になった。

“ねじる”と“ひねる”の技法の出現率をみると、圧倒的に“ねじる”技法が多く出現している。

・“ひねる”技法は簡単であるが、物をつくる時のパリエーションは限られてしまう。

“ねじる”技法は、ひねる技法を繰り返し行うことによって、いろいろな物が自然につくり出されて行き、見立てて遊ぶおもしろさなども加わり多くの出現が見られ

た。

“止める” “貼る” “差し込む” の合計出現率をみると、A組にはこの3技法の使用は全く見られない。D組だけが3技法の出現が3.5%ある。

特長的なのは、D組だけ“貼る”技法が2.3%と他のクラスと比較して最も多く出現がみられた。(大学1年生0.7%, B組0.5%, A組・C組は0%)

・D組は、のりを要求して使用しはじめた学生がおり、それを見て、『私も貼ってみましょう』と同じ技法が出現したと観察された。

“差し込む”技法は、C組、D組それぞれに1名の出現がある。

・新聞紙の薄い紙に切れ目を入れ、そこに差し込むという技法は、かなり高度な技術を必要とされるので、今回は出現が少ないのではないかと考えられる。

④ 小数出現技法

大学1年生、短大2年生全体別にみると、大学1年生では、“切れ目を入れる” “紙パネ折り” “かぶせる” 技法が、それぞれ出現数1である。

短大2年生は、“詰め込む” “三つ編” “切り抜く” “ふくらます” “止める” がそれぞれ出現数1である。

全26技法の中で“かぶせる”という技法は、大学1年生1名のみ出現し、短大2年生の技法には、出現は認められない。

・大学1年生、短大2年生共に、出現数1の技法は、指先を器用に使い、根気強くつづける技法のように受けとめられる。

4. まとめ

大学1年生と短大2年生に新聞紙を用いた造形活動『新聞紙であそぼう』を実施した結果、学生達の自由な発想で、26種類もの技法がひき出されたことに驚き、本研究では、特に造形技法の分類の視点から考察を行った。

・大学1年生は20種類の技法、短大2年生は25種類の技法が出現した。

・主たる造形技法は“丸める” “ねじる” “ちぎる” の3つの技法で、その占める割合は60%である。

・大学1年生、短大2年生の共通出現技法は、“丸める・巻く・ねじる・ひねる・ちぎる・裂く・折る・重ねる・包む・結ぶ” の10種類の技法である。

・大学1年生と短大2年生の技法での際立った差はあまりみられない。ただし短大2年生の方は、クラスに

よって特長があることは、クラスの雰囲気、人間関係が影響していると思われる。

・26種類の技法を①切る系列、②折る・曲げる系列、③つなぐ系列と大きく3系列に分類して考察した。

大学1年生・短大2年生共に②折る・曲げる系列(折る、ジャバラ折り、紙パネ折り、たたむ、丸める、巻く)の使用が最も多く、大学1年生40.8%、短大2年生39.6%である。

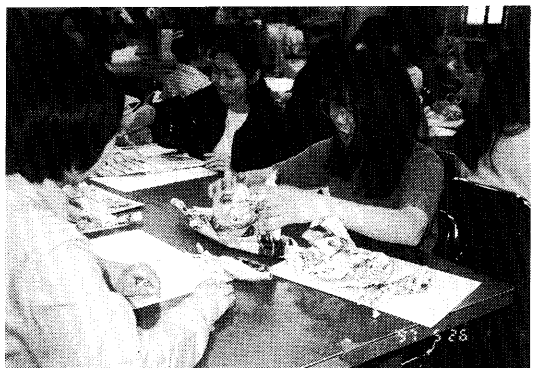
大学1年生は、31.1%③つなぐ系列(ねじる、ひねる、結ぶ、編む、三つ編)の使用が第2位で、①切る系列(ちぎる、裂く、破る、切れ目を入れる、切りぬく)の使用は22%となる。

短大2年生は、28.4%が①切る系列で、27.1%が③つなぐ系列であった。

学生は新聞紙が1枚1枚配布されると、手にした新聞をまず読む。そしておもむろに破いたり、まるめたりしはじめる。



写真③ 新聞紙を用いた造形活動状況



写真④ 新聞紙を用いた造形活動状況

『新聞紙で遊びましょう』という指示のみで、学生自身は、実際に活動をし体験することを約60分間十分に楽しむことが出来た。(写真③④参照)

新聞紙は、本来平面の材料であるが、古い新聞紙ということで、材料に対する抵抗が少なく造形操作が容易で、ちぎって点材とし、細長く裂いて線材(テープ状、带状)に、くしゃくしゃに丸めて塊材に、巻いて剣やステックをつくったりと、多様に使用することができる。

印刷の濃淡やカラー印刷の部分がちぎりとって貼り、はり絵のようにしたり、細かくちぎって、花吹雪のように散らしたり、このちぎったものをまとめて雪だるまや、ボールにしたり、折ってかぶと、帽子、冠など、穴をあけてお面を作ったり、Tシャツやポンチョのように着るものれ作ったりなど、巾広く多様な表現がみられた。

学生の中には、『破いたり、くしゃくしゃに丸めたり、ひねったり、のぼしたりと手を自然に紙と共に動かして遊んでいたら、精神的にも解放されたかのように、立体表現への芽が育ち、何かの形に見えて来たことを発見し、うれしくなり、友達に伝え合い、また次のイメージが浮かび、何かに生まれ変わったりして楽しめた』と感想を述べていた者がいるが、作品を作ろうということが先行せず、まず素材にふれ、もて遊ぶことによって、紙という素材の性質を知り、抵抗なく最終には何らかの形としての表現ができた。

このように学生達が、自分の手を通して素材や造形活動を体験し、それを通していろいろ考えたことが、今後幼児と楽しむ表現を考え、援助の仕方や、材料などについて探索する機会があたえられたと思う。もちろんそれを自覚させるような指導をしなければならないが、まず活動してみることが大切だと考えさせられた。今後授業展開に参考となった。

次には、他の角度、表現されたものの種類や技法との関係、幼児との比較なども行っていきたい。

謝 辞

本研究にあたり、多大なるご協力、ご指導をいただきました本学阿部明子教授に深く感謝の意を表します。

引用文献

注) 幼稚園教育要領(1989) 文部省 P.11

参考文献

- 1) 長坂光彦編著「絵画製作・造形」(1988) 川島書店
- 2) 熊田藤作著「楽しい絵のかき方」(1997) 建帛社
- 3) 佐藤 諒著「造形あそびアイデア事典」(1985) 東京書籍
- 4) 秋山和夫・千羽喜代子監修「造形あそび」(1983) 中央法規出版
- 5) 久保田浩編著「幼児と造形」(1979) 中教出版